

本資料には、個別工事費などの機微な情報が含まれているため、一部情報については、マスキング処理をしております。

「東北東京間連系線に係る広域系統整備計画」における 工事費増額の確認について

(C) プロジェクト管理体制の確認 ・ (D) その他

2024年 6月 24日
広域系統整備委員会
コスト等検証小委員会事務局

- 「東北東京間連系線に係る広域系統整備計画」のうち、**東北NWが事業実施主体の送電工事に着目**すると、コスト小委フェーズ2受審時（20年5月）に1,172億円であったものが、今回報告（23年10月）では**1,537億円（+365億円、+31%増）と大幅な増額となっている。**
- 東北NWの大幅な増額を受けて、**工事費の増額内容等については、以下4項目について確認**を行っていくこととした。
 - (A) 送電工事の設計に関する内容の確認とコスト低減に向けた検討
 - (B) 調達プロセスの確認
 - (C) プロジェクト管理体制の確認
 - (D) その他（丸森開閉所新設工事の大幅な減額要因の確認など）
- **本日は、(A)～(D)についてご報告する。**そのうち、**本資料では(C)「プロジェクト管理体制の確認」及び(D)「その他（丸森開閉所新設工事の大幅な減額要因の確認など）」についてご報告する。**

1. 各工事件名の最新工事費について

1-1 全体工事費の推移 **第36回報告**

1-2 送電工事費の内訳 **第36回報告**

2. 各確認事項の報告

(A) 送電工事の設計に関する内容の確認とコスト低減に向けた検討

(A)-1 鉄塔設計 **第38・39・40・41回報告**

(A)-2 基礎設計 **第38・39・40回報告**

(A)-3 仮設設計 **第38・39・40・41回報告**

(A)-4 その他 **第39・40・41回報告**

(B) 調達プロセスの確認

(B)-1 【送電】主要工事の調達プロセス **第38・39・40・41回報告**

(B)-2 【送電】主要設備の調達プロセス **第39・40・41回報告**

(B)-3 【送電】主要工事・設備以外の調達 **第40・41回報告**

(B)-4 【変電】主要工事の調達プロセス **第40回報告**

(B)-5 【変電】主要設備の調達プロセス **第38・40回報告**

(B)-6 【変電】主要工事・設備以外の調達 **第40回報告**

(C) プロジェクト管理体制の確認

(C)-1 プロジェクト管理体制 **第40・41回報告**

(C)-2 コスト小委フェーズ2 受審時期 **第40・41回報告**

(D) その他

(D)-1 丸森開閉所新設工事の大幅な減額要因の確認 **第38回報告**

3. まとめ

2. 各確認事項の報告

(C) プロジェクト管理体制の確認

(C)-1 プロジェクト管理体制

(C)-2 コスト小委フェーズ2 受審時期

(D) その他

(D)-1 丸森開閉新設工事の大幅な減額要因の確認

2-(C)の内容は、非公表

(C) プロジェクト管理体制の確認 まとめ（プロジェクト管理体制）

- 17年2月以降の整備計画策定以降、体制を構築しているものの、整備計画の概算工事費である**1,533億円を基準とした超過有無の確認と、超過した場合のみ数値を報告している状況**であった。
- 基幹系統工事情報連絡会の中では、全体工事費の増減に関わらず、**継続的なコスト低減についての検討は各主管部にて対応していたものの、議論がほとんどされていない状況**であった。
- 増額報告した23年10月以降に工事件名毎の工事費変動状況やコスト低減の取組状況を把握する目的でコスト管理会議を設置し、一送各社から提案のあった効率化施策（東京中部間連系設備の送電工事費の増額案における各一送からアイデア募集したコスト低減の確認リスト）については、採用可否の検討がされているものの、**1,827億円を基準に管理し、管理値超過の可能性が高まった際にコスト管理会議を開催し対応を議論することとなっていた**。
- **管理値の超過有無にかかわらず、最大限のコスト低減の追求すべきところであるが、現時点では最大限のコスト低減を図るための具体的なコスト低減案の議論は見られなかった**。

<東北NWへの要望事項>

- 広域機関にて、今回の概算工事費見通しとして1,716億円と示したが、東北NWにおいては、引き続き、最大限の更なるコスト低減の実現に向けて、管理体制を強化するとともに、**更なるコスト低減の深掘りや適正な価格交渉ができていくかに加えて、コスト低減の取組・検討状況の管理など、経営層の関与のもと確認、実行、改善を継続的に実施し、最大限の効率化に向けて取り組んでいただきたい**。

(C) プロジェクト管理体制の確認

まとめ（コスト小委フェーズ2 受審時期）

- 送電工事に関わるコスト小委フェーズ2 受審時期（20年2月・5月）は、資材又は請負発注手続きの2～3年前に受審しており、一部、調査・測量が未完了の箇所は、他工事の実績などを踏まえて想定したものであったが、東北NWとして十分に実施設計レベルに達しているとして、全ての送電工事件名を一括してコスト小委フェーズ2を受審していたことを確認した。
- 今回、事実確認した結果を踏まえると、実施設計段階において調査・測量の結果を踏まえることで、東北NWの工事費増額報告（23年10月）の一部は、早期に把握できた可能性がある。
- これは、資材又は請負発注手続きの2～3年前に、全ての送電工事件名を一括してコスト小委フェーズ2を受審したことに課題があったと考えている。

<今後の整備計画におけるコスト小委フェーズ2の受審時期>

- 東北NWからの実施設計レベルに達したとの報告を踏まえ、コスト小委フェーズ2 受審を了解した広域機関としても反省すべき点がある。
- 今回の反省を踏まえ、今後の整備計画におけるコスト小委フェーズ2の受審時期については、原則に立ち戻り、調査・測量等を十分に踏まえた実施設計による概算工事費をもとに、工事件名単位で、適切な時期に受審するものとする。
- また、コスト小委フェーズ2 受審前であっても必要により、広域機関からコスト低減の検討状況など適宜、確認できることとしてはどうか。例えば、四半期報告はコスト小委フェーズ2 受審以降に事業実施主体が工事費の変動状況を報告することとしているが、コスト小委フェーズ2 受審前であっても報告するなどを検討してはどうか。

2. 各確認事項の報告

(C) プロジェクト管理体制の確認

(C)-1 プロジェクト管理体制

(C)-2 コスト小委フェーズ2 受審時期

(D) その他

(D)-1 丸森開閉新設工事の大幅な減額要因の確認

2-(D)の内容は、非公表